

折に触れ 四字熟語

NO. 62 『歓天喜地』 かんてん きち

< 意味 > 大喜びすること。思わず小躍りするような大きな喜び。
「天に歓び地に喜ぶ」と読む。

語 釈： 「歓天」は天に向かって喜ぶ意。「喜地」は地に向かって喜ぶ意。
喜びのあまり実際に踊り出してしまうことを「欣喜雀躍きんきじやくやく」と言います。

用 例： 夏目漱石の「吾輩は猫である」に『漆桶しつづを抜くがごとく痛快なる悟りを得て歓天喜地の至境に達したのさ』とあります。

一 言： 年初にふさわしい言葉と考え選んでみました。世の中の人々にとって新しい年が喜びに満ちた溢れたものでありますよう祈念しながら。

参照文献： 三省堂「四字熟語辞典」 岩波書店「四字熟語辞典」